ベリンスキーの眼力

宮本百合子

青空文庫

「『マクベス』はシェークスピアの最も大きな、そしてそれと共に最も怪奇な作品の一つである。この作では一方からは彼の創造的天才の巨大な力が全部反映し、他方からは彼が生活している世紀の野蛮さの全部が反映している」

「シェークスピアは世界が有したかぎりの、詩の領域に於けるすべての天才のうち最大のものであるかもしれない。しかし同等に彼は自分の時代の、自分の世紀の子であった。人間の理性が千年の夢からやっと目醒めかけたばかりの、ヨーロッパでは数千人の魔法使を焼き殺したところの、そして誰でも人間と魔の力との直接的関係の可能性を疑うものはなかったところの、そういう野蛮な世紀の子である」

「彼が自分のドラマの中に導入した凡ての荒唐無稽さにも拘らず『マクベス』はそれでも中世紀のゴシック風の寺院の如く巨大なる、絶大なる作品である」「人類の全世界史的発達の各々の瞬間は、同様に豊富なる収穫を詩のために与えるものだということの証拠である。今後二世紀が過て、或はそれより少い年月でもよいかもしれないが、吾々が今十六世紀の野蛮性に驚くように、人が十九世紀の野蛮性に驚くであろう時には、人は十九世紀に於てシェークスピアを発見しないが、しかしバイロンやジョルジュ・サンドを発見するだろう。そして、これは人類がその中で出口なしに廻転しているところの円周ではなくて、そこでは各々の後から来る円周が先行する円周よりも広汎であるところの螺旋である。吾々の世紀は十六世紀に対して、後か

ら来る諸世紀がどういう点において十九世紀の野蛮性を見るべきであるかを予め知っているという重要な優越点を持っている」

　文芸評論家としてのベリンスキーの生々とした精神の精髄がここに現れている。ベリンスキーという人の存在が人類の発展にどういう歴史的な価値をもたらしたかということを理解する鍵がここにかくされている。そして、これらの明らかな理性と人間社会の未来への見とおしをもって語られている。言葉は、現世紀の読者に、おそらくは筆者の予想しなかったような複雑で具体的な展望を与える。何故ならば、現世紀の二十世紀野蛮さは、野蛮であることによって利益を蒙ることのない地球上の夥しい多数人民の心を深く傷ましめている。今世紀の野蛮性を、その社会的な原因の最も根蒂的な点にふれて剔抉（てっけつ）し、その根源をとりのぞいて成長することが切望されているからである。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集　第十二巻」新日本出版社
1980（昭和55）年4月20日初版発行
1986（昭和61）年3月20日第4刷発行
親本：「宮本百合子全集　第八巻」河出書房
1952（昭和27）年10月発行
初出：「女靴の跡」高島屋出版部
1948（昭和23）年2月発行
入力：柴田卓治
校正：松永正敏
2003年2月13日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ベリンスキーの眼力

宮本百合子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/